

市民の視点で市事業を評価

平成23年度 登米市行政評価「外部評価」

市が取り組んでいる事務事業について、市民の視点から評価する行政評価「外部評価」



より良い市を目指し、各事業ごとに活発な質疑応答が交わされました

が8月17、24、9月2の3日間、市消防防災センターで開催され、その様子が公開されました。

これは、行政と市民や民間の役割分担、費用対効果などについて、市民の視点による評価を実施するとともに、事業の必要性やそのあり方などについて議論を行うことで、より一層の事務改善や職員の意識改革に結びつけるため、市民参加型の取り組みとして昨年度から実施されています。3回にわたる評価では、50事業を対象に、登米市行政評価委員10人が二班に分かれて、事業の今後の方向性や改善策などについて提言がなされました。

委員からは、「事業の対象をさらに明確にすべき」、「もつと有効な実施手段があるのでないか」、「市民に事業のPRを十分に行って欲しい」など、多くの意見が出され、積極的な事業評価が行われました。

市では、今後、評価結果を踏まえたうえで、内容の見直しなどを行いながら、市事業に取り組んでいきます。

震災を乗り越え元気に発信

劇団ドリーム☆キッズ第9回ミュージカル公演

市内の小中高生らによるミュージカル劇団「ドリーム☆キッズ」の第9回ミュージカル公演「星に願いを」が森の中のメルヘン」が9月10、11の両日、登米祝祭劇場で開催されました。

今年の公演は、東日本大震災の影響で中止も検討されましたが、「元気を発信しよう」と開催を決定。9回目の公演となる今回の内容は、主人公の中学3年生のヒカルが、不



多くの出会いから「あきらめない気持ち」に気付く

思議な森の中で迷っている童話の主人公たちとの出会いを通して、自分の進む道を見つける姿を描いたものです。

演技や表現、歌などは舞台製作などを手掛ける「おむらいすフアクトリー（仙台市）」の指導を受け完成度の高いミュージカルとなりました。

公演には小中高校生、アシスタント27人のほか、10周年を記念して卒業生3人が参加し、4月中旬から練習してきた成果を披露していました。

子どもたちの公演を見ようと、両日とも会場には大勢の観客が訪れ、子どもたちが演じる素晴らしいミュージカルに、大きな拍手をいつまでも送っていました。

ドリーム☆キッズは、助登米文化振興財団が2002年に開催したミュージカル「風の声がきこえる」に参加した



素晴らしい歌声や、華麗なダンスを披露したドリーム☆キッズ

子どもたちと保護者が中心となって結成し、今年で結成10周年を迎えました。

これまでに8回の公演を上演。保護者や地域のボランティアの支援を受け年1回の公演に向けて、小学生から高校生の団員が、日々練習を続けています。

飲酒運転根絶と事故防止誓う

秋の全国交通安全運動市交通安全宣言大会

秋の交通安全運動期間中（9月21日～30日）の9月21日、交通安全宣言大会（市交通安全対策協議会主催）が登米祝祭劇場で開かれました。

佐沼・登米両警察署管内の交通安全団体、老人クラブ、小中学校から約450人が参加。開会后、参加者全員で交

通事故死没者に対し、黙とうをささげました。

あいさつで市長は、「いついかなるときに交通事故の被害者、加害者となるか分からない。市内から交通事故がなくなるよう、皆さんと力を合わせ交通安全に取り組んでいきたい」と交通事故の防止を呼び掛けました。

その後、市交通安全対策協議会長の市長から交通安全死亡事故抑止功労として南方地区の中央・西郷、津山地区の横山の3地区のコミュニティ推進協議会に表彰状を授与。

また、交通安全功労をたたえ、佐沼地区交通安全協会南方支部、米岡小学校、佐沼中学校、中田中学校および団体・個人にも表彰状が送られました。そのほか、前社団法人宮城県安全運転管理



交通安全に功労のあった団体、個人が表彰されました

者協会講習部長の黒須三郎さんを講師に招いて「子どもと高齢者の交通事故防止について」と題した講演や、佐沼地区交通安全協会女性部による暗闇で反射材を着用しての効果検証が行われ、正しい交通安全の知識を学びました。最後に、市老人クラブ連合会長が参加者を代表し、交通安全宣言を行い、登米市から交通事故や飲酒運転の撲滅を誓いました。

地域医療の新拠点が完成

施設整備が完了し 登米診療所で新診療棟開所式

地域医療の充実を目指す、市が整備してきた登米診療所の新診療棟が完成し、9月20日に開所式が行われました。登米診療所は、平成20年4月に98床の病院から無床の診療所に転換。適正な規模の施設



完成を祝い、関係者によるテープカット

設置を行うため、県の「地域医療再生事業補助金」を活用し、昨年12月に新診療棟の工事に着工しましたが、東日本大震災による工事の中断や建築資機材の不足で工期が遅れ9月15日の完成引渡しとなりました。

開所式には、医師や市関係者など約20人が参加し、関係者によるテープカットが行われ、市長が「今後、地域の係りつけ医や地域医療の拠点施設として、市民の支えとなるよう大いに期待しています」とあいさつを述べ開所を祝いました。

新診療棟は、面積約880平方メートル。診察室や検査室、レントゲン室、待合室などが完備されています。



このたび完成した登米診療所新診療棟